

令和4年度 決算概要報告

全体概況

当健康保険組合の設立4年目は、「ウイズ・コロナ」3年目にして組合が支払ったコロナ医療費も急上昇しました。傷病名別の年間医療費（外来と入院・10割、以下同じ）では、前年度比177%の3,419万円で第1位となり、第2位の「疑い」との合計額は5,628万円と全体の6.1%を占めました。これに伴い、いわゆる「コロナ労災」の調査件数も桁違いに増加。1件ずつ文書による事実確認を実施した上で回収した件数は1,000件近くになり、金額では、1,500万円超となりました。

傷病名別の年間医療費の第3位以下には、高血圧症（3位）、アレルギー性鼻炎（2位）、急性上気道炎（6位）、気管支喘息（5位）、慢性腎不全（7位）、急性気管支炎（9位）と、カッコ内の令和3年度順位と殆ど変わりありませんでした。

強制ではありませんが、アレルギー等の投薬のために通院中でリフィル処方せんを検討したことのない方には、通院先に相談されることをお勧めします。医師の判断が前提となりますが、「最大3回まで薬局で同じ処方せんが使える」ようになります。

一方で、重症化する慢性腎不全等の合併症を招きやすい2型糖尿病については、令和3年度の571万円から532万円に低下したものの、人数では78人から96人へ増加、重症化予備群の拡大が見られました。一例を挙げますと、インスリン自己注射している人が重症化すると、4～5時間の人工透析を週3日受け続けることになり、元の生活には二度と戻れなくなります。

当組合では、引き続き「健診は受けたら終わりではない」を合言葉に、令和5年度は一部補助対象のオプション検査の入れ替えを行い、全額組合負担の特定保健指導や重症化予防プログラムを継続実施し、個々の対象者にとっては健康の保持・増進を、組合全体としては一層の医療費適正化を目指しております。

決算概況

（一般勘定）経常収入（収入総額から健康保険組合連合会に全額を上納する調整保険料と、それを基にした同連合会からの財政調整事業交付金を除いた額）と経常支出（支出総額から上記の上納金である財政調整事業拠出金を除いた額）との差は、2億8,737万円（予算比146%）の黒字決算となりました。

（介護勘定）国に代わって健保組合が集金代行した保険料を納付金として国に納めるための勘定です。しかしながら、令和3年度が殆どの月で保険料額が納付金額を下回ったことから、国への認可申請を経て、第2号被保険者である被扶養者のいる40歳未満および65歳以上の被保険者を特定被保険者とし、第2号被保険者である被保険者と同様に介護保険料を徴収することとしました。これにより月次の収支バランスが改善、結果的に収支差は予算比341%の3,419万円の黒字となりました。

（一般勘定）

【基礎数値】

		前年度未実績 (2022.3)	本年度未実績 (2023.3)	年間平均
被保険者数	男	2,833人	3,019人	2,938人
	女	5,982人	6,242人	6,031人
	計	8,815人	9,261人	8,969人
平均標準報酬月額	男	260,584円	255,832円	257,788円
	女	252,453円	254,022円	253,078円
	平均	255,148円	254,630円	254,661円
標準賞与額（年合計）		1,755,858千円	1,835,371千円	-

	単業主	被保険者	合計
一般保険料率	4.865	4.865	9.73
調整保険料率	0.065	0.065	0.13
合計	4.93	4.93	9.86

(単位: %)

【収入の部】

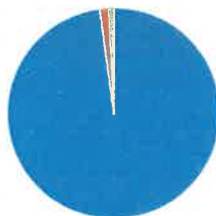
(単位: 千円)

	決算	予算	差(決算-予算)
一般保険料収入	2,757,846	2,602,841	155,005
調整保険料収入	36,846	34,776	2,070
国庫負担金収入	1,073	1,000	73
その他収入	24,310	22,191	2,119
経常収入	2,767,853	2,606,031	161,822
収入合計	2,820,075	2,660,808	159,267

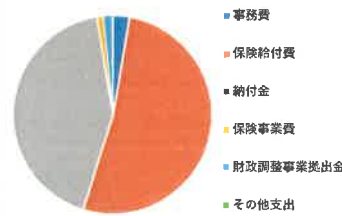
(単位: 円)

被保険者1人当たり収入	314,425	312,301	2,124
-------------	---------	---------	-------

収入内訳（決算）



支出内訳（決算）



【支出の部】

(単位: 千円)

	決算	予算	差(予算-決算)
事務費	67,813	78,061	10,248
保険給付費	1,311,452	1,282,566	28,886
納付金	1,072,963	1,083,906	10,943
保険事業費	26,856	65,344	38,488
財政調整事業拠出金	36,843	35,183	1,660
その他支出	1,398	11,274	9,876
経常支出	2,480,482	2,408,654	71,828
支出合計	2,517,325	2,556,334	39,009

(単位: 円)

被保険者1人当たり支出	280,670	300,039	19,369
-------------	---------	---------	--------

(単位: 千円)

	決算	予算	差(決算-予算)
【収支】	302,750	104,474※	198,276
（うち経常収支）	287,371	197,377	89,994

(※予備費)

※赤字の数値は、収入においては決算が予算を下回ったこと、支出においては決算が予算を上回ったことを表しております。

(介護勘定)

【基礎数値】

	前年度実績 (2022.3)	本年度実績 (2023.3)	年間平均
介護保険第2号被保険者たる被保険者	2,855人	3,236人	3,011人
保険料収入対象平均標準報酬月額	261,747円	258,352円	261,191円
標準費与額 (年合計)	521,419千円	576,147千円	-

	事業主	被保険者	合計
介護保険料率	0.981	0.981	1.962

(単位: %)

【収入の部】

	決算	予算	差(決算-予算)
介護保険料収入	196,533	172,373	24,160
一般勘定受入	0	8,000	8,000
その他収入	1	4	3
収入合計	196,534	180,377	16,157

(単位: 千円)

【支出の部】

	決算	予算	差(予算-決算)
介護納付金	162,339	162,340	1
一般勘定繰入	0	8,000	8,000
その他支出	0	3	3
支出合計	162,339	170,343	8,004

(単位: 千円)

【収支】

	決算	予算	差(決算-予算)
	34,195	10,034	24,161

(※予備費)

決算残金処分後の準備金(一般・介護)

	勘定	準備金
法定準備金	一般勘定	970,023
	介護勘定	67,757

347.67%

決算残金

具体的には、一般勘定・介護勘定とも【収支】に記載のとおりです。健康保険組合は、決算が組合会承認された後、承認された方法で速やかに決算残金を保管しなければなりません。当組合では、一般勘定・介護勘定とも、準備金として取引銀行の定期預金口座に移動させ、満期更新することにしております。準備金保有率については、当初目標であった100%（≒保険給付費2か月分と各種納付金1か月分の合計額）を令和2年度に達成することができましたが、その際、「次年度目標は250%」に引き上げました。本決算の結果、それをさらに上回り、率が348%、金額では10億3,778万円となり、財政基盤の一層の強化を果たすことができました。

【各科目についての説明】

(収入の部)	一般保険料収入	被保険者と所属先の各事業会社と折半で納めて頂きます。組合収入全体の98%を占めます。
	調整保険料収入	一般保険料と共に各事業会社と折半で納めて頂いた後、健康保険組合連合会に対し、財政調整事業拠出金として納めます。
	国庫負担金収入	健康保険の事務の執行にかかる費用について、国が各組合に対し、被保険者数に基づき算出した金額を支払うものです。
	その他収入	財政調整事業交付金（高額医療交付金：1,211万円）を含んでおります。
(支出の部)	事務費	組合事務所の家賃やホームページの制作・運用費など、日々の組合運営にかかる費用です。
	保険給付費	皆様の医療費（外来・入院）や薬代の7～8割分の支払いの他、産休取得時の出産手当金、分娩費用として（家族）出産育児一時金等があります。
	納付金	高齢者医療を支えるための費用です。前期高齢者納付金として4億8,343万円、後期高齢者支援金として5億8,952万円を納めました。
	保険事業費	加入者の健康維持向上のための健診や特定保健指導に対する補助、ならびに健診予約システム利用料等が該当します。
	財政調整事業拠出金	当該年度分の調整保険料を健康保険組合連合会に納めます。連合会からは、財政の厳しい組合や高額な医療費を支払った組合に対し、交付金が支払われます。
	その他支出	主なものとして、上部団体である健康保険組合連合会（東京本部と大阪支部）の年会費があります。
	予備費	健保組合の会計科目が大小の順に款項目と分類されており、款同士での予算流用が禁じられているため、当該款内での予算を使い切ったときに限って充当できる予算です。